

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	特別支援教育課長 三島賢隆	電話番号	0852-22-5420
----------	---------------	------	--------------

事務事業の名称	高等学校ソーシャル・スキル・トレーニングモデル事業		
目的	(1) 対象	高等学校に在籍する発達障がいのある生徒	
	(2) 意図	社会性を身につけ学校生活や卒業後の社会生活をスムーズにするための支援方法を検討するため、モデル的に実施する。	
事業概要	高校において、支援担当教員によるソーシャルスキルトレーニング（SST※）を実施するため、モデル校に代替非常勤講師を配置する。実施内容について、評価委員会による評価を行い、今後の事業展開につなげる。（H25～H28）		
	※ S S T ・「発達障がい」の特性上、困難と言われている「社会生活を営むうえで必要な様々な技能」を高めるための指導（例えば、好ましい人間関係や集団生活を形成するために必要な技能などを習得させる指導）		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	実施校でのSSTの実施状況	目標値	35.0	35.0	35.0	35.0	週
	式・定義	年間における、SST実施の週数	取組目標値					
			実績値	21.0				
			達成率	-	-	-	-	%
2	指標名		目標値					
	式・定義		取組目標値					
			実績値					
			達成率	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	1,186	998
うち一般財源 (千円)	1,186	998

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

第Ⅰ期（H25・26）に実施した2校について、評価委員会を経て、他の高等学校へ実践報告を行った。
 第Ⅱ期（H27・28）では、第Ⅰ期での実践を踏まえ、連携先を中学校にまで広げ、対象生徒に対するより詳細な実態把握や指導計画の作成等まで進めている。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- ・第Ⅰ期の実践報告・情報共有により、他の高校でも生徒の実態把握や校内の体制整備が進んだ。
- ・評価委員会の開催により、事業実施に対する適切な助言が得られ、第Ⅱ期へつなげることができた。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- ・普通高校での検証が不足している。
- ②困っている状況が発生している「原因」
- ・第Ⅰ期の2校は、専門高校での実施であり、第Ⅱ期は普通高校で実施しているが、実践事例が少ない。
 - ・普通高校での実施は、障がいに対する本人の実態認識や保護者の理解が様々であり、実施が困難なケースがある。
- ③原因を解消するための「課題」
- ・普通高校での事業の継続
 - ・SST担当教員の専門性の向上により、本人・保護者、校内での理解を深める

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・H28も普通高校をモデル校として実施し、担当教員の専門性の向上や実践事例の集積を図る。
- ・第Ⅰ期・Ⅱ期の実践結果を総合的に検証・評価し、今後の高校での発達障がいのある生徒への支援方法を検討する。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。
 ・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）